

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>開設時に薫風舎が目指す想いを、職員全員で話し合っ て作った理念「薫風舎の誓い」を掲げている。</p>	<p>地域密着型サービスの創設に伴い、その意義を職員 全員で確認・理解し、理念の中へその想いを込めて実 践しているが、利用者や地域のニーズに合わせ、追記 する事を検討している。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践 に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>・入職時のオリエンテーションで説明し、意志と向かうべき方 向性の統一を図っている。・毎朝、申し送り終了後に出勤職 員全員で唱和し念頭に入れ実践に取り組んでいる。・理念 が書かれた用紙を全職員に配布。常に確認・実践できる様 にネームプレートの裏に入れて業務している。・ミーティ ング時に議題に取り上げて周知徹底と意志統一を図っている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続ける ことを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に 理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>・パンフレットへ掲載し、入居前に全ての利用者・家族へ文面を 用いて説明し、理解を得ている。・ホーム内の廊下へ見易く掲 示し、いつでも再確認して頂ける様にしている。・ホーム便りに掲 載し、利用者・家族・関係機関への配布と回覧板での地域への 浸透を図っている(隔月)。・運営推進会議を活用し、折に触れ て繰り返し家族や地域の方々へ伝え、理解を得ている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をか けあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日 常的なつきあいができるよう努めている。事業 所は地域の一員として、自治会、老人会、行事 等、地域活動に参加し、地元の人々と交流する ことに努めている。また、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り組ん でいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、 地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>・日常的に近隣散歩や買い物に外出し、近隣住民や 地域の方々との交流が盛んである。散歩中の近隣住 民が立ち寄ってくれている。・町内会へ加入しており、 定期的に町内行事へ利用者と共に参加・交流してい る。・年間を通して周辺の保育園や小学校・福祉施設 との交流があり、特に小学校とは盛んに往来してい る。また、近所の小学生が学校帰りや休日に気軽に遊 びに来てくれる。・運営推進会議やホーム主催の バーベキュー等へ近隣住民の参加を呼び掛け、参加 して頂いている。会議では地域貢献できる事につい て、話し合いを行い取り組んでいる。</p>	<p>今後も町会・地域活動に積極的に参加すると共に、地 域の社会資源やネットワークの活用の上を目指し、 自治会や老人会に加入する事・職員個々が認知症高 齢者に対する理解を深める事ができる様に、認知症 キャラバン・メイトや認知症サポーターになる事を検討 していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価の意義を、運営者・全職員へ研修資料を回覧すると共にミーティング時にも説明し、全職員で評価に取り組む、質の向上に努めている。また、昨年度受けた際の改善箇所を見つめ直し、具体的な取り組みを行っている。</p>	<p>昨年度の評価報告書を、ホーム内に掲示し、家族・関係機関への配布・報告を行い、意見や要望を受け付けたが主に無かった。今年度も同様に受け付けて改善に取り組んでいく。</p>
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・2ヶ月に一回開催し会議の都度、入居者の現況報告と活動状況の報告を行い、参加メンバー同士での情報・意見・要望の交換を日常のケアへ取り入れて活かしている。・町会からのアドバイスを基に町内会の行事への参加の機会ができ、地域との交流の頻度が増えてきている。</p>	<p>今後も地域に根ざしたホームを目指し、サービスの質の向上に繋げていく。</p>
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・市主催の講習会を受講している。 ・報告・連絡・相談時は、電話での手段だけでなく、積極的に足を運び助言等をして頂いている。</p>	<p>今後も積極的な連携に取り組み、サービスの質の向上につなげていく。</p>
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>・研修の参加やパンフレット回覧での周知等で、全職員が学び、理解できる様に取り組んでいる。 ・一名ではあるが、利用している方がいる。</p>	
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>認知症という病気と、高齢者虐待防止関連法に対する知識と理解を、職員採用時や適宜のミーティング時に議題で取り上げて周知し防止に努めている。また、家族に対しては不安やストレスの回避に努め、利用者との良好な関係が継続できる様に努めている。</p>	<p>早急にマニュアルの作成に取り組んでいく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		<p>家族確認のサインを頂く形を検討中である。</p>
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16</p> <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職が一家族の欠如となる利用者へのダメージの大きさから最小限に抑える努力をしている。やむを得ず離職する場合は利用者への説明をきちんとした上で、引継ぎを行い、また、新しい職員が入る場合も利用者への紹介と信頼関係構築への配慮をしている。</p>		<p>現時点での系列施設等への異動のケースはない。</p>
<p>5.人材の育成と支援</p>			
<p>17</p> <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員一人ひとりが、内外研修に積極的に参加できる様、年間計画を立て実施している。研修後は報告書作成とスタッフミーティングでの報告をし、全職員でケアに繋げている。また、OJTの確保やいつでも利用できる文献を職員室に置いたり、助言、指導等 人材育成と質の向上に努めている。</p>		
<p>18</p> <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>全国、県、市のグループホーム協会に加入し、同業者との交流やネットワーク作り、相互訪問、情報交換が図られており、サービスの質の向上に常に取り組んでいる。</p>		
<p>19</p> <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・定期的に個別に悩み・ストレス等を聴取し、相談に応じている。・休憩室と十分な休憩時間の確保、職員親睦会を設け、気分転換やストレス解消に取り組んでいる。</p>		
<p>20</p> <p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・毎日、管理者と報告・連絡・相談を行う他、頻回にホームへ来て利用者や職員と会話をする等して、個々の努力や実績・勤務状況を把握し、やりがいや向上心を維持できるように配慮している。また、資格取得に向けた支援と取得後は高い評価をしている。・毎年、健康診断を実施し、職員の心身の健康を保つ為の体制を整えている。・系列の調剤薬局との連携の橋渡しを行い、薬剤や病気に対する意識向上に繋げている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前に訪問調査・ホーム見学・電話連絡で、本人・家族の不安等を傾聴して受容する様に努めている。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>まず第一に、在宅生活中の方であれば在宅生活が継続可能である事を視野に考えた後、グループホームの役割についてを解り易く説明している。また、他のサービス利用が適当だと思える時には、その旨の説明を行っている。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前に本人や家族に、ホーム見学と、ホームでのひと時を過ごして頂く事と、職員がご自宅を訪問させて頂く事で、安心と納得して頂いた上でサービスの利用へと移行している。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>“利用者と一緒に”“利用者は人生の大先輩である”という考えを常に職員が念頭に置き、生活歴を理解した上で、日常の会話の中から趣味や関心のある事を聞き出し、生活内に最大限に取り入れ、利用者の指導の下に作業をしたり会話の中でもたくさんの事を教えて頂き、喜怒哀楽を共有して支え合う関係作りを構築している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の心境をその立場になって理解をし、家族と寄り添いながら、共に本人を支え合っていく為に、面会時の傾聴・報告・相談だけでなく、毎月の手紙や適宜の電話での交流の機会を作り、より良い関係作りの構築に努めている。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・家族の苦勞や不安が取り除かれる様に支援を行い、良好な関係作りが維持できる様に努めている。・理念の通り職員も家族として日々支援しており、暮らしぶりや健康状態・本人の想いをこまめに伝えている。・ほぼ毎日の様に家族の面会があり、外泊は毎月にある。ホーム内外各種行事への家族参加や通信等で、本人・家族の関係が良好である。		今後も継続してより良好な関係が維持できる様に努めていく。
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・入居前から利用している病院・美容院・商店等を継続利用する事で、大切な関係が維持できる様に支援している。また、入居者自ら公衆電話を利用して馴染みの友人達との関係を維持している。・墓参りや法事には、家族の協力を得て外出して頂いている。		
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が自発的に関わり協力して物事を行える様に、会話の橋渡しや共通の話題提供・穏やかな環境作り等の支援を行っている。		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も相談や支援に応じる等、これまで築いてきた本人・家族との関係を大切にする様に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>		
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	上記同様	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>		上記で得た情報を基に、生活内で随時気付きや現状の把握に努めて周知している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>		センター方式を活用して、入居時に本人・家族・関係者より情報収集を得、その上で日々の思いや希望等を聞いている。また、サービス担当者会議に可能な限り参加して頂ける様に連絡し、調整を行っている。日常の関わりの中での気付きを基に、職員全体で意見交換やケアカンファレンス・ミーティングを実施して、それらを反映した個々に合わせた介護計画を作成している。
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>		モニタリング(毎日)、アセスメント(毎月)、見直し(3ヶ月に1回)をし、利用者の状態変化時は都度本人・家族・関係者と話し合い、現状に合わせた個別の介護計画を作成している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録へ詳細に記入し、職員間での報告・申し送り等で、状態把握・情報交換・共有しながら日々の実践に活かしている。また、ケアプランについては毎日実施状況を記入し、月毎にモニタリングを行い、見直しに活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
36 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	可能な限り、状況や要望に応えられる様に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
37 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町内の回覧板や運営推進会議を活用して近隣へ理解と協力を働き掛けている。また、町内会の行事や教育機関へ、こちらから交流の働き掛けを行い、協力が得られている。その他、防災訓練に定期的に消防職員が立ち会って下さり、有事の際の安全確保に向けて協力頂いている。		本人の意向や必要があれば、今後は民生委員やボランティアへの働き掛けを行い、協力の下支援して行きたい。
38 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性に応じて、担当ケアマネジャーや他のサービス事業所と連絡を取り合っ、サービスの検討をしている。		
39 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	情報交換や運営推進会議への出席依頼等を行い、連携に努めている。		より一層協働し、支援して行ける様に取り組んでいく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に添って、入居前から馴染みのかかりつけ医への継続受診を支援している。主治医とは連絡を密にし、本人や家族の希望に添った適切な治療や健康管理が実施できている。外来受診時や往診時は、主治医による診察・問診等 受け易い状況を作っている。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関の内科医師は"かかりつけ医認知症対応力向上研修"を終了している為、高齢者や認知症に理解があり、相談したり、助言や指示などを受けられるよう支援している。また、専門医の受診が必要な場合は紹介して頂く事もできる。		
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制をとっており、常勤の看護職員と協働し、日常的な健康管理・医療機関(主治医)との連絡や調整等の支援をしている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には医療機関と連携をとり、家族や関係者も交え情報交換・相談・話し合いをし、利用者が安心して過ごせ、また 早期退院できる様に支援している。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合の対応に関わる指針」に基づいて早期から、本人・家族と話し合いをし、また 2週間に1回 協力医・薬剤師・看護職員・介護職員による医療カンファレンスを実施し、繰り返し話し合っ方針の統一を図っている。		今後も段階的に話し合いを重ねていく上で、相互に内容を確認・理解し易い様な書式の作成を検討中である。
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期に向けた今後の状態変化に備えて利用者・家族・主治医・協力医・関係者と連携を図りながら支援して行く体制を整えている。		今後もチーム間で 更に理解を深める為の話し合いを重ねていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	馴染みの生活様式や過ごし方、ケアにおける気付き等の詳細についてを、本人・家族の了承の下、関係者間で情報交換を行い、ダメージを最小限に防ぐ努力をしている。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
47 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・全職員が、自尊心を傷つけない事・プライバシーの保護を常に自覚し、配慮した声掛けや対応に努めている。記録類も同様に取扱いに配慮している。 ・毎月のミーティングや研修等を通じて、コミュニケーション技術や対人マナーの習得を図っている。		自分では気付かない日々の声掛けや対応の振り返り・マニュアルの見直し等を定期的に行い、誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底に努めていく。
48 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常的に、本人の思いや希望を引き出す様な関わりや会話・雰囲気作りを心掛け、自発的自己決定と納得した生活に向けて支援している。(複数の選択肢の提案や場面作り)		
49 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調等に応じた意思決定と、自分のリズムに合わせた生活が、可能な限りできる様支援している。その為、毎日の日課や職員側の決まり・都合は最小限しか決めていない。また、希望に合わせて柔軟な対応をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・日頃から本人の望みに合わせて、身だしなみやおしゃれを楽しんで頂ける様に支援している。また、個々の希望に合わせて行きつけの理美容院に外出したり、月1回美容師に来訪を依頼して利用して頂き、楽しみの一つとなっている。 ・行事や外出の際、自ら化粧やおしゃれを楽しむ方も多い。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	残存能力の活用と食欲増進となる様に、毎食とも食材選 び・献立決め・調理・盛り付け・配膳・後片付けを一緒 に行っている。また、一緒に収穫した菜園の野菜や季節毎 に旬の食事を取り入れている。職員は一緒に食卓を囲ん で同じ物を食べながら会話を楽しんだり、和やかな雰 囲気作りを行っている。		
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、 好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常 的に楽しめるよう支援している	個々の嗜好に合わせた数種類の飲み物や食べ物を 用意し、自ら選択・決定・準備できる様に支援してい る。また随時、希望に合わせて買い物外出を支援し、 購入を楽しまれている。		
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひ とりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気 持ちよく排泄できるよう支援している	入居時や必要時は、チェック表を用いて仕草や合図の 観察も含めてパターンを把握した上で、個々に合わせ た自立に向けた支援を行っている。また、不安や羞恥 心・プライバシーへ配慮して気持ち良く安心して排泄 ができる様に支援している。		
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず に、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、 入浴を楽しめるように支援している	日時の指定や取り決めはなく、状況により一人ひと りの希望やタイミング・体調に合わせて、いつでも入浴 をすることができる体制をとっている。浴室内に造花を 飾ったり、音楽を流したり、個々が好きな入浴剤を入 れる等、ゆっくりと楽しめる様に支援している。		・入浴をしたがらない方に対して、適宜の声掛け・工 夫・足浴・清拭等を行っている。 ・心地良さが実感できる様に今後も取組んで行きた い。
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応 じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう 支援している	・個々の生活習慣に合わせた生活が送れる様に支援 している。 ・体調や気分を観察し、毎日の生活リズムを個々に決 定して頂くと共に、それに合わせて安眠や休息への環 境作りに努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽し みごと、気晴らしの支援をしている	関心のある事や長年行ってきた趣味・家事・作業・レクリエーション 等が意欲を持ちながら継続して行える様に支援している。個々の役 割は、自主的に他入居者と分担・協力して行っている。また、個別 の外出や散歩・地域の行事・家族との交流等、可能な限りの機会を 設けている。		職員は意欲向上に繋がる様な声掛けやサポート、感 謝の言葉を心掛けている。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個々の希望や力量に応じて小遣い程度を自己管理して頂き、ホームで管理している方も含めて、支払い時は自分で行って頂ける様に支援している。</p>		
58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>日常会話を通じて利用者個々の外出希望を引き出し、外出意欲が湧く様に支援している。楽しみや喜び、気分転換や五感への働きかけの機会として、散歩や茶話会・ドライブ・買い物外出等へ、毎日外出の支援をしている。</p>		
59	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>日常会話を通じて利用者個々の外出希望を引き出し、可能な限り実施している。また、家族交流・外出も機会を設けて頂き、実施されている(墓参り・自宅・外食・温泉等)。</p>		
60	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>利用し易くプライバシーが保てる場所に、文字盤が大きく見易い公衆電話を設置している。使用時は、使い方の説明や掛ける動作の支援も、希望に応じて行っている。</p>		<p>認知症の進行防止に繋げる為にも、手紙を通じて言葉・文字に係わる時間を設けて、書く習慣・環境作りに繋げたい。</p>
61	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>年間を通してほぼ毎日の面会があり、面会者より訪問し易い、居心地が良いとの声を頂いている。いつでも気軽に来てゆっくりと交流できる様に、環境に配慮したり、面会時間も特に制限していない。また、希望時はいつでも宿泊できる。</p>		<p>近隣の方や近くの小学校に通う子供達が、気軽に遊びに来て頂いている。</p>
(4)安心と安全を支える支援				
62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>どういった事が身体拘束にあたるか事例を挙げて全職員で理解・周知徹底をして、身体拘束をしないケア実践に取り組んでいる。</p>		<p>全職員の共有認識の再確認に向けて、講習会への参加やマニュアル作成・勉強会の開催に取り組みたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の自由な暮らしを支え、入居者・家族・来訪者に心理的圧迫を感じさせない様な開かれた玄関設計をし、日中は玄関に施錠せず防犯上夜間のみ施錠、拘束のない生活環境作りに配慮している。好天時は玄関扉を開放している。扉の上部に呼び鈴を設置しており、開閉時の音と職員の気付き・声掛けを徹底している。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に全利用者の所在や状況を把握・見守り・ケアできる様に、本人の生活のプライバシーに配慮しながら、職員間で連携を取り確認の徹底を行っている。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態や生活に合わせてながら、自己管理から嚴重管理に分けて保管・管理し、いずれも危険性について常に細心の注意を払っている。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	火災等については、毎月防災訓練を実施して有事の際に備えている。行方不明・急病については、対応マニュアルを作成して掲示・周知している。転倒・窒息・誤薬については、ミーティングにて事故防止に向けた予防策を話し合っている。また、あった事例についてはヒヤリハットメモ・事故報告書へ記入し、全職員で防止策を検討・周知し再発防止に向けて取り組んでいる。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命講習の受講・応急手当に必要な器具類を整備しており、管理者と看護職員による定期的な実習指導を職員へ行い、対応ができる様に取り組んでいる。また毎月、緊急連絡網による初期対応訓練を実施し、円滑に対応できる体制をとっている。		救命講習の再受講や、作成中の緊急時応急手当・対応マニュアルの活用等にて、定期的に対応訓練を重ねていく。
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	色々な有事の際を想定し、消火・通報・避難等の防災訓練を毎月実施し、円滑に適切な避難誘導が行える様に努めている。また、年2回の訓練時に消防署員に立ち会って頂き指導を受けている。		・地域の方も防災訓練に参加して頂ける様に働きかけている。 ・非常時の飲食料等を準備中である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
71	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
72	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
73	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	各感染予防対応マニュアルに基づき、職員全員に周知徹底し、マニュアル通りに対応している。入居者・スタッフ共、一行為前後のうがいと手洗いを励行し、習慣化されている。玄関には手指消毒剤を置き、感染予防をしている。また、毎年利用者・職員共にインフルエンザ予防接種を実施している。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理マニュアルに基づき、手洗い、食器及び調理器具・布巾・お絞りの除菌と消毒(毎食後)、冷蔵庫内清掃・消毒(週一回)を徹底して行っている。また、賞味期限の確認、残食の処分、EMWの噴霧なども徹底している。食材は新鮮で、安心して食せるものを使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	木製で手動の玄関扉、花壇や芝生、庭にベンチ・テーブル・バーベキュー設備の設置、庭木のイルミネーション等により、誰もが安心して気軽に出入りできる様に工夫している。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木目調を基本とした建物の中に、季節にあった花や飾り付け・観葉植物を置き、ゆったりとした音楽を静かに流し、不快な音への配慮をし、家庭的な雰囲気作りをしている。採光を多く取り入れる為、窓を多く設置しつつ、ブラインドで調整をして居心地良く過ごして頂ける様に配慮している。		舎外へ季節感が一目できる花々を植えているが、更に楽しめる様に増やしていきたい。
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファ・置、玄関内にソファ、テラスにソファとテーブル、非常口側にシッティングコーナーを設置し、気の合った利用者同士が思い思いの場所で過ごせる様に工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
81	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
82	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
83	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
84	<p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・私達が毎日唱和し、日々取り組んでいる理念「薫風舎の誓い」は次の通りです。

- 一 私達は一つの屋根の下に家族です。
- 一 私達の周りにはいつも笑顔です。
- 一 私達はいつもあなたの味方です。
- 一 私達はあなたの全てを受け入れます。
- 一 あなたの今日が明日の私達です。
- 一 家族と共にある薫風舎です。

・地域の方々の理解度が大きく、暖かく弊害のない支え合いができています。

・利用者が住み慣れた地域の中で有する力を発揮しながら、安心してそして自分らしく生きる支援を、私達が日々実践している中で、入居後 認知症の緩和により介護度の軽減が図られ、在宅復帰した方・在宅復帰に向かっている方がいらっしゃいます。

・日頃、利用者より「今までの人生の中で今が一番幸せだ。」また、ご家族より「入居前には感じられなかった笑顔や生き活きとしている姿を見る事ができ、入居を決断して良かった。」との言葉を頂いている事が、私達の一番の幸せです。

・365日、ほぼ毎日数組のご家族や知人・友人の方々の面会があり、利用者とのより良い関係が継続されています。